

日 野 貞 雄 著

胆 嚢 疾 患 の X 線 診 断

千葉大学教授・内科 三 輪 清 三

胆嚢疾患というものは、その診断は一見易いように見えるが、実際は仲々むずかしいものである。その易いというのは他の疾患との鑑別を十分しないので唯臨床症状のみで診断をつけてしまうことが比較的多いからであらう。胆嚢炎にしても、胆石症にしてもそうである。本書の著者の序文にも述べられておるように、胆嚢疾患は、われわれ臨床医家が、日常遭遇することが非常に多いものである。そしてそのしっかりした診断ということになると仲々むずかしいものである。そこで診断法というものがいろいろと考えられ、発展してきたのである。

この胆嚢疾患の診断法として最も有力なるものはX線診断であることは周知の通りであり、このX線診断法も、その造影剤が世の中に出てから40数年になるが、以来いろいろと改良もされ、その手技についても熱心なる諸家により次第に発展し、最近では仲々立派な造影がなさ

れ、われわれ臨床医家も、ちゅうちょすることなくその診断をつけられることがしばしばあるようになってきている。又最近では直接胆嚢造影法も、比較的副作用もなく行なわれるようになり、又テレビを利用してこれを行なうことにより、一層殆ど何等の副作用もあらわれず、しかも普通の造影ではうつらない胆嚢や胆管までも極めて鮮明にうつし出されるようになってきた。

このような時に、臨床医家にとって最も必要なことは胆嚢、胆管のX線診断である。一般実地医家にとってはまず外来患者にでも簡単に実施することができる胆嚢X線診断の技術と、またその成績についての判断力をつけることが大切であると思う。

この意味、この目的のために、今回あらわされた「日野貞雄博士著の胆嚢疾患のX線診断」なる書物は全くその要求をみたされていると思う。

まず基礎的知識として、大切な造影剤に関し述べられ、次いで手技についてこんせつていねいに書かれてある。そしてその判読についても詳しく示され、しかもよく例をあげ、代表的なX線写真を数多く載せられ、説明されてあることは一般医家にとって大変便利なことと信じている。

胆嚢疾患というと、最も多いのは胆石症、胆嚢炎であるが、本書では、特にこれらの疾患のX線診断に関し、多くの実例の写真をあげて記載されてあるので、臨床医家、殊に実地医家にとっても極めて便利な著書であって、このような書物が比較的少ないので、特に目につく次第である。このような著書を中心に今後益々この種の検査法が研究、進歩発展することを念願してやまない。

B5判 頁210 図31 写真249
¥4,600 ㊦90